

公 共

# 設 計 図 書

(特記仕様書・位置図・工事数量総括表)

2025 年度施行

留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事

---

留萌市

特 記 仕 様 書

## 特記仕様書

- 20 一般事項  
01 適用  
01 共通仕様書
- 当該工事は、『北海道建設部土木工事共通仕様書』（以下「土木工事共通仕様書」という。）に基づき施工すること。
- 02 土木工事積算基準等
- 1 当該工事の設計図書は、北海道建設部が制定した次の積算基準等に基づき作成している。
- （１）一般土木工事  
「土木工事積算要領」、「土木工事積算基準」、「土木工事工種体系化の手引き」
- （２）漁港工事  
「漁港関係工事積算基準」、「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
- 2 「土木工事積算基準」及び「漁港関係工事積算基準」において定めている諸基準に基づき次のとおり扱っている。
- （１）機械施工と人力施工等の施工方法や区分は設計図面等から判断し、機械施工が困難である場合を除き、機械施工を標準として積算している。
- （２）特記仕様書等で別途明示している場合を除き、各基準において定めている標準工法・標準機種で積算している。
- （３）上記（１）（２）については、受注者の任意施工を拘束するものではない。  
ただし、現場条件等がこれにより難しい場合には、必要に応じて設計変更する。
- 3 「土木工事工種体系化の手引き」、「漁港関係工事工種体系化の手引き」において定めている事項を、設計図書の規格・摘要欄に明示しているが現場条件等に差異が生じた場合には、設計変更の対象とする。
- 4 当該工事の数量算出書は、北海道建設部が制定した次の土木工事数量算出要領等に基づき作成している。
- （１）一般土木工事  
「土木工事数量算出要領」
- （２）漁港工事  
「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
- 03 概数
- 1 「概数として扱う数量一覧表」に示した数量は概数である。概数として扱う事項の施工に当たっては、施工後でなければ数量の確認ができない場合を除き、現地調査終了後速やかに工事監督員と協議し、数量の確定を行い着手すること。

## 特記仕様書

- 2 概数の確定により数量の変更が生じた場合には、設計変更により処理する。  
なお、設計に対して過大な出来形数量に変更するものではないことに留意すること。
- 3 「概数として扱う数量一覧表」で示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として扱う場合がある。
- 4 当該工事において、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。

### 04 非契約数量

工事数量総括表の単位及び数量が（ ）で表記されている数量（摘要を含む）は、契約事項とならない数量である。  
ただし、契約数量に連動して数量の確定や現場条件変更等が生じた場合には、必要に応じて設計変更する。

### 08 現場環境改善(選択) 漁港

- 1 現場環境改善は、周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、現場労働者の作業環境の改善を行うために実施することを目的とする。
- 2 現場環境改善の実施内容は、次の各項目（仮設費関係、安全費関係、営繕費関係、役務費関係、防災・危機管理関係、担い手育成関係）から選択することとし、具体的な実施内容や実施時期については、施工計画書を提出する時に工事監督員と協議すること。
  - (1) 仮設費関係
    - (1) 垂れ幕（横断幕）
    - (2) 工事看板（説明板・案内板・PR看板）
    - (3) 緑化・花壇（椅子・ベンチ含む）
    - (4) ライトアップ
  - (2) 安全費関係
    - (1) 器具美装化（バリケード）
    - (2) 器具美装化（転落防止柵（足場・安全ネット））
    - (3) 器具美装化（工事標識）
    - (4) 器具美装化（安全標識）
    - (5) 器具美装化（照明）
    - (6) 器具美装化（安全機器（カラーコーン・回転灯））
    - (7) 器具美装化（安全具（救命胴衣・救命浮環・ヘルメット・安全靴・安全帯・消火器））

## 特記仕様書

- (8) 清掃費
- (9) 熱中症予防
- (10) 防寒対策
- (3) 営繕費関係
  - (1) 設備美装化（現場事務所・現場休憩所・作業員宿舎）
  - (2) インフォメーション施設の設置及び管理運営
  - (3) 行事の開催
- (4) 役務関係
  - (1) 現場環境改善に係る土地借上げ及び道路等の占用に要する費用
- (5) 防災・危機管理関係
  - (1) 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）に使用する作業船・重機の燃料費
  - (2) 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）に使用する作業船・重機の回航えい航費・運搬費
  - (3) 防災訓練（地震・台風等の自然災害に対する訓練）に使用する資機材の費用
- (6) 担い手育成関係
  - (1) 現場見学会の開催・見学用設備
  - (2) パンフレット・工法説明ビデオ
  - (3) 出張講座の資料作成

3 工事完了時には、現場環境改善の実施状況が確認できる写真を提出すること。

### 101 工事工程の共有について

受注者は、現場着手前（準備期間内）に設計図書等を踏まえた工事工程表（クリティカルパスを含む）を作成し、監督員と共有すること。

工程に影響する事項がある場合は、その事項の処理対応者（「発注者」又は「受注者」）を明確にすること。

施工中に工事工程表のクリティカルパスに変更が生じた場合は、適切に受発注者間で共有することとし、工程の変更理由が以下の

①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延長が可能となる場合があるので協議すること。

- ① 受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合
- ② 著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生した場合
- ③ 工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合
- ④ 資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合
- ⑤ その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合

### 21 工程関係

## 特記仕様書

- 04 施工の制限内容
- 01 時間的制約を求められた場合の報告  
当該工事の施工に当たり、関係機関・自治体等から通勤・通学の時間帯や周辺地域の状況により、時間的制約等を求められた場合には、工事監督員に報告すること。
- 12 中間検査
- 01 中間検査  
1 当該工事は、次の段階で中間検査を実施する。  
検査対象：北海道建設部土木工事共通仕様書第1編第1章1-1-1-27中間検査を準用し、工事監督員と協議のうえ、施工計画書に明記すること。  
なお、上記以外で、必要に応じて中間検査を追加することがあるが、その時は事前に受注者へ通知する。  
2 中間検査の実施に当たっては、実施可能日の7日前までに工事監督員に報告すること。
- 23 公害関係
- 01 公害防止の指定内容
- 11 排出ガス対策型建設機械の使用  
当該工事は排出ガス対策型建設機械を使用することとしているが、使用できない場合は設計変更の対象とする。
- 24 安全対策関係
- 01 交通安全施設の指定
- 06 バリケード等の設置、誘導警備員の配置  
当該工事箇所には、第三者が工事区域内へ侵入しないようにバリケード・保安灯を設置すること。  
また、配置については、北海道開発局保安施設設置標準図に基づき適正に配置すること。
- 27 建設副産物・廃棄物関係
- 03 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
- 01 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律  
この工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号、以下「建設リサイクル法」という）」に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。
- 05 副産物・廃棄物の処理条件
- 02 特定建設資材廃棄物の処理条件

## 特記仕様書

分別解体等によって発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、発生木材、アスファルト・コンクリート塊）は、次のとおり再資源化等を実施することとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設廃棄物における適正処理計画について記載すること。

また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

### 1 コンクリート塊

- （１）処分場所：留萌建設管理部管内（受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
- （２）処理方法：再資源化
- （３）受入条件：粒径 30cm以下

### 102 検査等に合格した場合における瑕疵担保の取扱い

検査（中間検査・完成検査）、段階確認、落橋防止装置等を対象とした抜き打ち非破壊試験検査に合格しても、後に施工不良等が判明した場合は、受注者の瑕疵担保責任が免責されるものではない。

### 103 現場代理人の常駐義務緩和について

- 1 現場代理人は、原則として当該建設工事の着手日から完成届の受理日まで工事現場に常駐し、運営取締りを行うものとする。

ただし、次のいずれかに該当する期間は、工事現場に常駐を要しないことができるものとする。

- （１）契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
- （２）建設工事の全部を一時中止している期間
- （３）上記に掲げる期間のほか、工事現場において作業等が行われていない期間

- 2 次の各号のすべてに該当する場合に、現場代理人の兼務を認めるものとする。ただし、現場の状況等を考慮し、現場代理人を兼務することが適当でないと認めたときは、この限りでない。

- （１）兼務する建設工事の請負代金額の合計が4,000万円（建築工事は8,000万円）未満であること。
- （２）兼務ができる工事は、原則3件以内であること。ただし、災害復旧工事については、別途協議により決定する。
- （３）工事場所が原則留萌市内で、公共工事であること。（他発注機関の工事との兼任の場合は、他発注機関が認めていること。）
- （４）工事監督員と常に連絡が取れる体制を確保できること（携帯電話や連絡責任者の配置）。
- （５）現場代理人は、兼務するいずれかの工事現場に常駐すること。

- 3 受注者は、同一の現場代理人を複数工事現場に配置しようとする場合は、現場代理人兼務届出書（別途様式第1号）を、市長に提出するものとする。

## 概数として扱う数量一覧表

		工事名	留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事	当初	事業区分	漁港整備		
					工事区分	護岸・岸壁・物揚場		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
護岸・岸壁・物揚場				式		1		
構造物撤去工				式		1		
撤去工				式		1		
コンクリート被覆防食撤去			有筋（鋼管杭）	m3		1		概数
運搬処理工				式		1		
殻運搬			コンクリート（鉄筋）構造物とりこわし 機械積込 有り 1.6km以下 全 て の費用	m3		1		概数



## 工 事 数 量 総 括 表

工事名            留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事

留萌市

## 工事数量総括表

		工事名	留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事			( 当 初 )	事業区分	漁港整備		
						工事区分	護岸・岸壁・物揚場			
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要				
						現場条件	単位	数量		
護岸・岸壁・物揚場		式		1						
維持補修工		式		1						
防食工		式		1						
電気防食	アルミニウム合金陽極 50年-2.0A型 【アルミニウム合金陽極   50年-2.0A型 】	個		4		< 1 個当たり > 取付金具製作  取付金具取付  陽極取付	組  組  個	1  1  1		
電気防食	アルミニウム合金陽極 50年-2.0A型 【アルミニウム合金陽極   50年-2.0A型 】	個		13		< 1 個当たり > 取付金具製作  取付金具取付  陽極取付	組  組  個	1  1  1		
ペトラタム被覆	鋼矢板 【コンクリートアンカー   径16mm L = 60mm 】 【防食材料   鋼矢板・鋼管矢板 】	m2		43		< 43 m2当たり > 鋼矢板・鋼管矢板 足場設置撤去  下地処理（かき落とし）  被覆防食  端部処理	m  m 2  m 2  m	21.6  43  43  74		

## 工事数量総括表

		工事名	留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事			( 当 初 )	事業区分	漁港整備		
							工事区分	護岸・岸壁・物揚場		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件	単位	数量
ペトラタム被覆			鋼矢板 【防食材料   鋼管杭 】	m2		9		< 9.4 m2当たり >		
								鋼管杭 足場設置撤去	m 2	18.8
								下地処理（かき落とし）	m 2	9.4
								被覆防食	m 2	9.4
								端部処理	m	9.4
補修工				式		1				
鋼板補修			6mm以上10mm未満 材工共	m		21		< 20.7 m当たり >		
								軽量鋼矢板不足分弁償金市場価格	t	0.1
								水中被覆アーク溶接	m	20.7
構造物撤去工				式		1				
撤去工				式		1				
コンクリート被覆防食撤去			有筋（鋼管杭）	m3		1		< 10 m3当たり >		
								コンクリート被覆防食撤去	m3	10
運搬処理工				式		1				

## 工事数量総括表

		工事名	留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事			( 当 初 )	事業区分	漁港整備		
							工事区分	護岸・岸壁・物揚場		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要			
							現場条件	単位	数量	
殻運搬		コンクリート（鉄筋）構造物とりこわし 機械積込 有り 1.6km以下m3 全て の費用 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費   1 0 t 積級 良好 供用日 】【再資源化 廃棄物受入費   有筋・無筋コンクリート 30～ 300mm （株）ネオリサイクル】			1		< 1 m3当たり > 殻運搬  処分費（t）	m 3  t	1  2.5	
直接工事費			式		1					
共通仮設費			式		1					
共通仮設費			式		1					
現場環境改善費(率計上)			式		1					
共通仮設費（率計上）			式		1					
純工事費			式		1					
現場管理費			式		1					

## 工事数量総括表

		工事名	留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事				( 当 初 )	事業区分	漁港整備		
							工事区分	共通仮設費			
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要			
								現場条件		単位	数量
工事原価				式		1					
一般管理費等				式		1					
工事価格				式		1					
消費税相当額				式		1					
工事費計				式		1					

位 置 図

# 位置図

工事名	留萌港古丹浜ふ頭-10m岸壁防食改修工事					
施工箇所	留萌港 古丹浜地区					
範囲	起 点	北緯	東経	終 点	北緯	東経

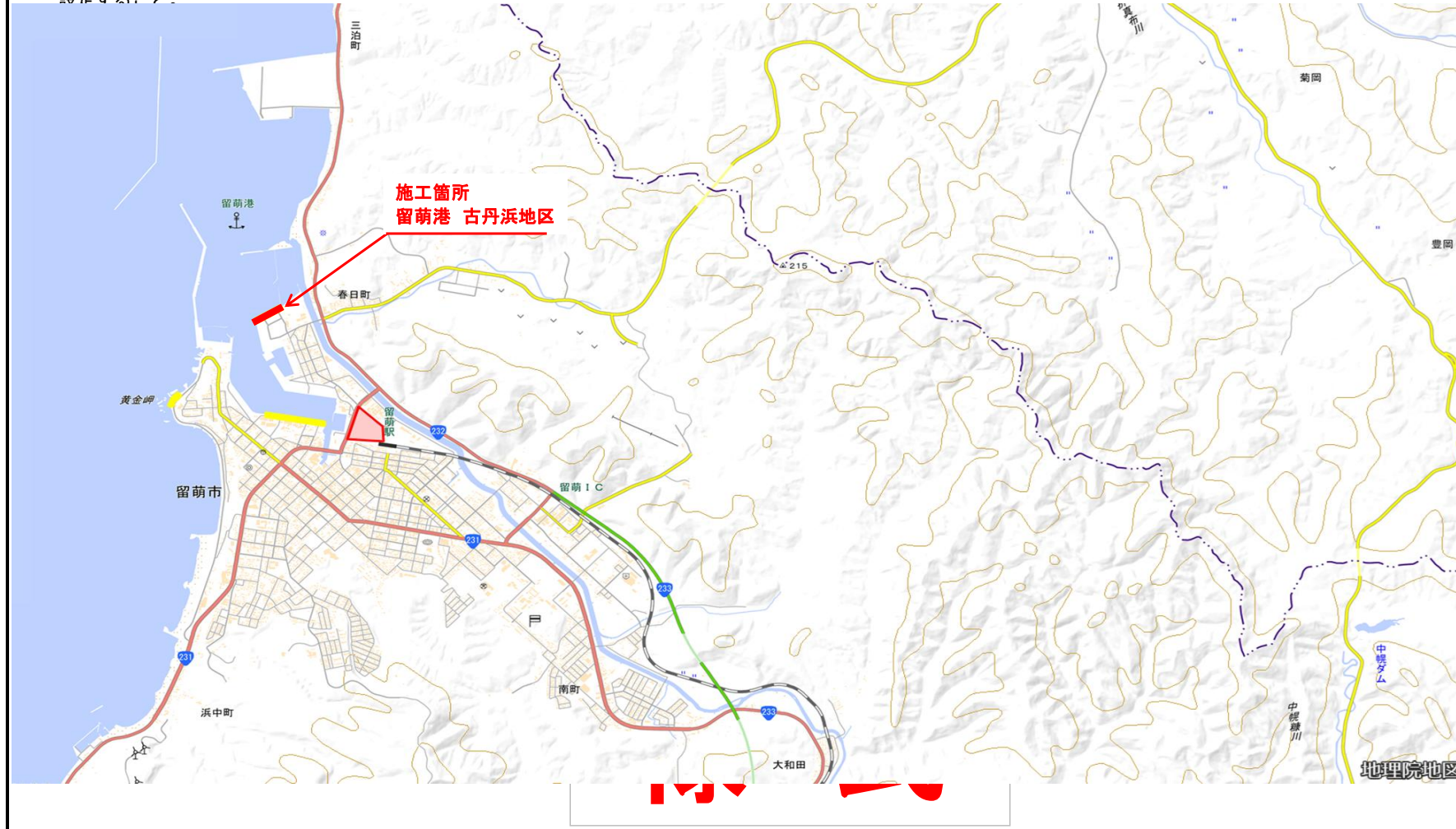
※工事箇所の住所については施工起点の左側の住所としています。

※緯度経度については、世界測地系であり地理院地図を利用した簡易測定結果。



図面は上が北です

①位置図を貼り付け、凡例に示したオートシェイプをコピーして旗揚げ等を行ってください。位置図の縮尺については工事範囲、周辺状況等を考慮の上、適宜設定すること。



<凡例>  
旗揚げ線

施工箇所

施工箇所

施工箇所塗り  
・起点を示せる工事  
(矢印の先が終点)



・起点を示せない工事  
(区域を囲う)



建設副産物の仮置箇所

● 建設副産物の仮置場

残土処理場箇所・仮置箇所

▲ ○○場箇所

土取場箇所・発生土受渡箇所

▲ ○○場箇所

その他指定する箇所（仮設ヤード等）

□ ○○場箇所

輸送起点等

■ ○○起点

表示情報（表示している情報は■）

- ☐ 施工箇所・施工範囲
- ☐ 建設副産物の仮置箇所
- ☐ 残土処理場
- ☐ 仮置場
- ☐ 土取場
- ☐ 発生土受渡箇所
- ☐ 輸送起点箇所
- ☐ その他

備考